

厚田龍澤寺の龍神様について

Ryujin of Ryutakuji in Atsuta, Hokkaido, Japan

坂本 恵衣*

Kei SAKAMOTO*

キーワード：厚田，龍神，神社，寺，セグロウミヘビ

はじめに

2018（平成30）年11月に，厚田区・浜益区の寺院を調査し，厚田区古潭の龍澤寺において興味深いご神体が見られた（図1）。

石狩市厚田区は，石狩市の北部に位置する．厚田は，7000年程前から人が住み始めたとされる住居跡や石器，土器が見つかった．近世から近代にかけては鯨等の漁場として栄え，江戸時代には松前藩によって，アツタ場所が開かれていた．1869（明治2）年に広域行政区画が置かれた際

に，石狩国厚田郡となり，1902（明治35）年の二級町村制施行で厚田村となった．そして，平成17（2005）年に当時の石狩市，浜益村と合併し，現在の石狩市厚田区となる（石狩町編，1972；石狩町編，1985；谷内ほか，1969）．厚田区には龍神を祀った祠があり，厚田村史には2つの龍神堂について記載がある．また寺院においても複数のご神体が確認されている．漁業で栄えた厚田区において，海上安全や漁業繁栄が祈られたことと考えられる．今回，厚田区古潭の龍澤寺で，蛇を祭った御神体が見つかり，これも龍神の一種であると考えた．本稿では厚田区古潭の龍澤寺で発見された龍神のご神体について若干の考察を加える．



図1．龍澤寺の位置（国土地理院地図に加筆）．

1. 龍神信仰とは

龍神信仰^{（注1）}は，元々は古代中国の想像上の靈獣である龍に対する信仰である．日本においては中国の影響を受けつつも，水神の表徴である蛇を神格化したものとして龍が信仰されることが多い．水神としての性格から，農耕生産，雷神と結びついた他，漁民の間では豊漁を祈って海神，龍宮の神を祀る龍神祭も広く行われてきた（國學院大學日本文化研究所編，1999）．

日本国内では仏教の「八大龍王」や「善女龍王」，神社で広く信仰されている「九頭龍大神」，不動明王の化身とされる「俱利伽羅龍王」，陰陽道で取り上げられる「青龍」等様々な

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

形で龍が神として信仰され、そのご神体の形やご利益、想起されるイメージは多岐にわたる。

厚田区内の龍神について厚田村史には2社の記述がある。「中番屋の竜神堂」と「ポンピラの竜神」である（表1）。

以上の2社の内、中番屋の竜神堂は現在でも確認できる。その他には厚田区において江戸時代に創立され、厚田村に人が集まる以前から存在していた寺院で龍神が祀られる例が今回の調査で確認された。

2. 龍澤寺について

現在厚田には、上記のように江戸時代に創立され、現在も龍神が祀られている寺院が2社存在するが（表2）、本稿では石狩市厚田区古潭の龍澤寺で発見された龍神のご神体について取り上げる。

龍澤寺所有の文書によると文久元（1861）年に函館市高龍寺第十八世住職大光海雲大和尚を勧請開山し開闢開山（初代住職）に萩原泰能師（後に

古潭神社神主）を迎え、開基（龍澤寺建立発願者）である古潭請負人平田興三右衛門の寄進により龍澤寺が建立された。龍澤寺は函館の高龍寺の末寺にあたる。古潭では漁業・農業が盛んにおこなわれ、古潭の人口も多く、最盛期には出稼ぎ人も含め千人以上が居住していたこともあり、龍澤寺の檀徒も200軒に達した。

龍澤寺の本尊は創建当時は釈迦牟尼佛であったが、現在は阿弥陀如来である。本堂は創建当時は現在の古潭墓地の位置に建てられたが（図2）、明治5（1872）年に風雪の影響で大破し、明治7（1874）年に開拓使厚田郡出張所が石狩出張所に併合されると、その出張所官宅の土地建物を払い下げられた。しかし、昭和20（1945）年には空襲によって庫裡が全焼、本堂は柱などに爆弾の痕跡が残るなど被害を受け、昭和30（1955）年に本堂大修築、昭和32（1957）年庫裡新築、昭和58（1983）年本堂・庫裡が増築され、現在に至る。

龍澤寺には漁業者や船乗りが信奉する山形県鶴岡市の善宝寺のお札や、元治元（1864）年に厚田場所請負人浜屋の白津狩鮭漁の網にかかり、慶応

表1. 厚田区の龍神について.

名 称	祭 神 等
中番屋の竜神堂	龍神のご神体として、尾の扁平な海蛇、厨子入りの三体の海神像。厨子には「嘉永三（1850）年戌年二月作也。大阪二ツ井戸川南東がわ。仏師祝い弥兵衛」の記載有。
ポンピラの竜神	個人で小さなお堂を建てて祀っていたという伝承有。

（谷内ほか編，1969より）

表2. 江戸時代創立の寺院.

名前	所在地	宗派	創建
三面山 龍澤寺	石狩市厚田区古潭2	曹洞宗	文久元（1861）年
自然山 正眼寺	石狩市厚田区別狩17番地	曹洞宗	文久2（1862）年

（石狩市郷土研究会 石狩の碑厚田区編調査編集委員会，2012より）

3（1867）年に奉納されたとされる仏像が祀られている。また、寛政3（1791）年と寛政4（1792）年に厚田場所請負人村山家が寄進した鰐口2点も所蔵され、現在では石狩市の指定文化財となっている。

3. ご神体について

龍澤寺には本尊の他に、上述した善宝寺のお札や烏天狗と思われるご神体、鏡等が祀られており、その中に「龍神」とされるご神体が存在する。木製の祠の中に蛇のご神体が収められている（図3）。この蛇のご神体に注目すると、体色は背中側が黒、腹側が黄色の2色で、尾部分は斑点模様になっている。この特徴から、種類としてはセグロウミヘビという非常に強い毒を持つウミヘビで、学名は*Pelamis platura*であると考えられる（内山, 2009）。

このセグロウミヘビであるが、日本国内では古くから神様として祀られてきた歴史をもつ蛇である。代表例としては出雲大社があげられる。出雲大社では「龍蛇神」と呼ばれる神が祀られている。龍蛇神は神在月（旧暦の10月、現在の11月頃）の神迎神事・神迎祭の際に神々の神使として出雲大社までの神幸の先導をすることで知られる。出雲大社の「龍蛇神講」によると、龍蛇神は水龍の信仰の面からは火難・水難除けの守護神、蛇の信仰の面からは土地の災難除けの守護神とされ、現在では家内安全や除災招福等の守護神として広く信仰されている（上田, 1979；出雲大社教HP）。

このセグロウミヘビであるが、海流によって漂流し、日本国内、特に出雲地方においては、打ち上げられたものを「龍蛇」として出雲大社に奉納すると共に、民家でも神棚に祀る習慣があったとされる（内山, 2009）。

龍澤寺の龍神のご神体の奉納された時代や奉納者は不明であり、この出雲大社の「龍蛇神」とどのような関りをもつのかも定かではない。しかし、漁業で栄えた厚田区内において、龍神のご神



図2. 古潭墓地の位置（国土地理院地図に加筆）。



図3. 龍澤寺のウミヘビを祀った御神体（寺島典人氏撮影）。

体は複数確認されており、水難除け等を祈って当時の人々が奉納したものと考えられる。現在でも信仰の対象とされているご神体であるということから、当時の厚田区における信仰の本州との関係性を知ることができる資料の1つであると考え

謝辞：本稿の執筆に伴い、龍澤寺の河村康喜住職には資料提供調査等たくさんのご協力を賜りました。資料調査においてご協力いただいた大津市歴史博物館の寺島典人氏、セグロウミヘビの同定にご協力いただいた青木伸剛氏、徳田龍弘氏に感謝いたします。また、北海道教育大学の百瀬響教授、いしかり砂丘の風資料館の工藤義衛氏、志賀健司氏には、資料の調査及び情報提供についてご指導頂きました。末筆ではありますが、お世話になった皆様に心より御礼申し上げます。

注1 「竜神」とも表記するが、本稿では「龍神」で統一する。なお、以下に記載する「中番屋の竜神堂」と「ポンピラの竜神」については、書籍そのままの標記とする（谷内ほか編，1969）。

引用文献

- 石狩市郷土研究会 石狩の碑厚田区編調査編集委員会，
2012. 石狩の碑 厚田区編. 石狩市郷土研究会.
石狩町編，1972. 石狩町誌 上巻. 石狩町.
石狩町編，1985. 石狩町誌 中巻一. 石狩町.
出雲大社教，HP. 龍蛇神講.
http://www.izumooyashirokyo.or.jp/400_06_ryujyajinko-taisai.html（2019年2月27日閲覧）.
上田常一，1979. 竜蛇さんのすべて. 園山書店.
國學院大學日本文化研究所編，1999. 縮刷版神道事典. 弘文堂.
谷川健一，1998. 日本民俗文化資料集成20蛇（ハブ）の民俗. 三一書房.
谷内鴻・藤村久和・鈴木藤吉・木滑二郎編，1969. 厚田村史. 厚田村.
内山りゅう，2009. 二本の両生爬虫類. 平凡社.